

診療現場を革新する
動画対応
DRシステムの
最新動向

2. 清潔補助業務導入で変わる 支援の目線 ——スムーズに導入するための課題

大角 真司 倉敷中央病院放射線技術部

当院の診療放射線技師は、医師の働き方改革に向けて、循環器内科医師をはじめメディカルスタッフの理解・協力を得て、心臓カテーテル検査・治療において現行制度の下で実施可能とした「血管造影・画像下治療 (IVR) における医師の指示の下、画像を得るためカテーテル及びガイドワイヤー等の位置を医師と協働して調整する操作」(表1)、および法令改正を行い推進される「動脈に造影剤を投与するため

(図1)、いわゆる清潔補助業務(セカンド業務)を習得する機会を得た。

しかしながら、診療放射線技師の減少により余力がなく、また、スキルの習得にも時間を費やし、清潔補助業務になかなか入れないのが現状である。

本稿では、われわれが経験したさまざまな要因を含め、タスク・シフト/シェアの必要性(支援の効果)、スムーズに導入するための課題、また、診療放射線技師が清潔補助業務に入ることで支援できることを紹介する。

タスク・シフト/シェアの概要と現状

2024(令和6)年4月から医師の時間外労働の上限規制が適用されることに伴い、医師から医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが必要となった。われわれ診療放射線技師においても、診療放射線技師法、省令改正などにより多くの業務拡大が認められた。

このタスク・シフト/シェアを進めるに当たっては、医療安全の確保および各医療関係職種の資格法における職種ごとの専門性を前提として、医師との信

表1 現行制度の下で実施可能とした業務について〈診療放射線技師〉
(参考文献1)より引用改変)

No.	業務内容	医師側団体からの依頼	主な場面	特に推進するもの
1	検査や治療の説明と同意(含む相談) 放射線検査(CT/MRI/RI)の説明や副作用に関する説明、検査前の問診 IVRの定型的な手技の説明、被ばくに関する説明	※	外来・病棟・放射線検査室	★
2	血管造影・画像下治療(IVR)における医師の指示の下、 画像を得るためカテーテル及びガイドワイヤー等の位置を医師と協働して調整する操作		血管造影室	★
3	画像誘導放射線治療(IGRT)における日々の照射に際し、放射線治療計画を基準とした位置照合 画像の一次照合を行い、一定基準を超えた位置誤差を確認した場合に医師に報告し判断を仰ぐ	※	放射線治療室	
4	放射線造影検査時の造影剤注入確認・抜針・止血	※	放射線検査室	
5	画像下治療(IVR)術前における医師等により事前作成されたチェックリストに基づく、 ・採血結果の確認 ・リスクファクターの確認 ・服薬状況の確認 ・医師への報告	※	病棟・放射線検査室	
6	放射線管理区域内での患者誘導	※	放射線検査室	★
7	診療放射線技師が実施可能な検査 結果に異常を疑った際の医師への連絡	※	放射線検査室	
8	撮影部位の確認・追加撮影オーダー(医師の事前指示に基づく実施) 〈検査で認められた所見について、客観的な結果を確認し、医師に報告〉(※1)		放射線検査室	★
9	病院又は診療所以外の場所で、診察後の患者に対する医師又は歯科医師の指示による 出張して百万電子ボルト未満のエネルギーを有するエックス線の照射		医療機関外	
10	医療放射線安全管理責任者		放射線検査室	

【留意事項】※1:当該所見に基づく病状等の判断は医師が行う。